

旧諸戸清六邸

六華苑

平成の世によみがえった六華の苑

「ながめ、みどり、たくみ、しづけさ、やすらぎ、はぐくみ、六つの華を意味して六華苑と名付けられたのが、今から13年前。諸戸宗家の西諸戸に対して、本家であるこちらは東諸戸と呼ばれてきました」と苑長の畠中裕さん。平成2年、桑名市は諸戸家より建物の寄贈を受け、修復・整備工事をスタート。公募の中から選ばれた「六華苑」を、東諸戸（旧諸戸清六邸）の新しい名称として一般公開（平成5年6月）した。「ながめ」とは眺望、「みどり」とは蒼古、「たくみ」とは建築美を示す。この三つの要素が「しづけさ」の静寂と、「やすらぎ」の和楽を醸し出しています。

そして「はぐくみ」という教養を与えてくれるという。他所では味わえない素晴らしい六つの華、これが「六華苑」の名前の由来である。

日本の三大庭園の一つ金沢の兼六園が、六つの美を兼ねていることから名付けられたことは周知の通り。名付け親は奥州白河藩（いまの福島県）の藩主松平定信。隠居をして榮翁と号した。子息はのちに領地替えによって桑名藩へ移り、藩政の実権を掌握している。明治44年に着工し、大正2年に竣工した東諸戸は、「六華苑」として平成の世によみがえった。

黒漆喰塗のどっしりとした長屋門

黒漆喰塗のどっしりとした長屋門

をくぐり、緩やかなスロープを下ると、空色の外壁

にクリーミー色の窓回りの瀟洒

な洋館が見えてきた。鹿鳴館や東

京帝室博物館（東京国立博物館の前身）などを設計し、日本近代建築の父

ア・コンドルが建てた邸宅。コンドルの

作として地方に現存する唯一の建築

物である。

洋館の主は、2代目諸戸清六。25歳

の青年実業家は、1万8000円余

と呼べられたイギリス人建築家ジョサイ

ア・コンドルが建てた邸宅。コンドルの

作として地方に現存する唯一の建築

物である。

洋館の主は、2代目諸戸清六。25歳

の青年実業家は、1万8000円余

と呼べられたイギリス人建築家ジョサイ